

# 感染予防対策マニュアル

2020.4

# 感染予防対策マニュアル

I 感染症予防対策のポイント・・・・・・・・・・ 3

II 感染症の基礎知識・・・・・・・・・・ 4

III 日頃の感染症予防対策・・・・・・・・・・ 6

〈サービス提供時に気をつけること〉

1. サービス内容に合わせた予防対策について・・・・ 6

2. 手洗いについて・・・・・・・・・・ 7

IV 感染症早期発見のための日頃の観察ポイント・・・・ 8

V 感染症を疑った時の確認事項と拡大防止対策・・・・ 9

(参考資料)

\* 次亜塩素酸ナトリウム希釈液の使用方法和作り方

# I 感染症対策のポイント

～感染症の発生予防と早期発見のために～

\* 日頃の感染症予防対策が大切です

- 手洗い、うがい、消毒
- 利用者の健康管理（全身状態の観察、栄養バランス、清潔ケア）
- 環境整備
- 必用時、手袋、マスク、エプロンの使用
- サービス提供者自身の健康管理

感染症を疑う症状があったら...



疑ったときのチェック項目の確認



サービス管理責任者へ報告しましょう

- 医療機関（主治医）へ報告
- 管理者へ報告
- 保険所へ相談

\* 感染の拡大を防ぎましょう

- 感染拡大防止対策の実施

\* 日頃の感染予防対策に役立てましょう

- 感染症予防マニュアルの活用

## Ⅱ 感染症の基礎知識

### 1. 代表的な感染経路

- 飛沫感染 会話やくしゃみ・咳などをしたときのしぶき（飛沫）を介して感染します。飛沫は約1メートル以内の距離を飛んで床に落下します。  
例) 風邪・インフルエンザなど
- 空気感染 飛沫の水分が蒸発した飛沫核が空気の流れに乗って浮遊し、それを吸い込むことによって感染します。例) 結核、麻疹（はしか）など
- 接触感染 皮膚や粘膜などにいる病原体が手指や衣類などを介して感染します。例) MRSA、緑膿菌、疥癬など
- 経口感染 病原体に汚染された水や食べ物、手指などが口に入ることで感染します。例) 病原性大腸菌（O157）、A型肝炎、ノロウィルス、インフルエンザなど
- 血液感染 血液の中の病原体が注射や傷口への接触などにより体内に入ることによって感染します。例) B型肝炎、C型肝炎、エイズなど

## 2. 感染症を予防するには...

感染症は誰もがかかっている可能性を持っています。

利用者対応をする上では「誰もが何らかの感染症を持っているかもしれない」と考えて、対応していくことが必要です。

このような全ての感染症に通用する感染予防の考え方を

「標準予防対策（スタンダード・プレコーション）」と言います。

感染の可能性のあるものとして扱わなければならないのは...

- ① 血液
- ② 体液（精液・膣分泌液）  
分泌物（痰・唾液）  
排泄物（尿・便・吐瀉物）
- ③ 傷など（褥瘡・湿疹など）がある皮膚
- ④ 粘膜（口腔内・陰部）

感染予防のポイントは「確実な手洗い」と「感染の可能性のあるもの」には直接素手で触らない」ことです。

## Ⅲ 日頃の感染症予防対策

### 1. サービス内容に合わせた予防対策について

～手袋、マスク、エプロンなどが必要な時～

利用者へ直接的に関わる時は、感染症の有無に関わらず、常に「感染の可能性があるかもしれない」と考えて感染予防対策をとることが「自分自身の身を守ること」「他の利用者への感染を防ぐこと」になります。

\		通常の身体介助 ・食事介助 ・体位交換 ・入浴介助 など	家事援助 ・調理 ・掃除 ・洗濯 など	『感染の可能性のあるもの』 に触れる援助 ・排せつ介助 ・陰部清拭 ・吐物処理	・オムツ交換 ・口腔ケア ・汚物処理
介 助 前	手洗い	○	○	○	
介 助 中	エプロン ・家事用 ・介助用	○	○	○	
	手袋 *自分の手指に傷があるときは必ず着用	\	△	○	
	マスク *自分が咳をしているときは必ず着用	○	○	○	
	長袖の予防衣 靴下	疥癬の時に使用する			
介 助 後	手洗い	○	○	○	
	うがい	○	○	○	

## 2. 手洗いについて

必ずペーパータオルまたは清潔なタオルで拭き取って乾かす

できていますか？ 衛生的な **手洗い**

- 1 流水で手を洗う
- 2 洗浄剤を手取る  
両手を洗うのに十分な量の洗浄剤を取りましょう
- 3 手のひら、指の腹面を洗う
- 4 手の甲、指の背を洗う
- 5 指の間(側面)、股(付け根)を洗う
- 6 親指と親指の付け根のふくらんだ部分を洗う
- 7 指先を洗う
- 8 手首を洗う(内側・側面・外側)
- 9 洗浄剤を十分な流水でよく洗い流す
- 10 手をふき乾燥させる
- 11 アルコールによる消毒

**2度洗いが効果的です!**  
2~9までの手順をくり返し2度洗いで菌やウイルスを洗い流しましょう。

©公益社団法人日本食品衛生協会

## IV 感染症早期発見の為の観察ポイント

感染症の早期発見のためには、日頃から利用者の状態を観察する習慣を持つことが大切です。利用者の中には症状を訴えにくい方もいるため、スタッフができるだけ早く「いつもと違う」ことに気づくことが感染症拡大予防において重要です。

1) 意識	<ul style="list-style-type: none"><li>• 受け答えはいつもと変わらないか</li><li>• ぼんやりしていないか</li></ul>
2) 熱	<ul style="list-style-type: none"><li>• 発熱があるか</li><li>• 熱の経緯（上がり下がり）</li></ul>
3) 食欲	<ul style="list-style-type: none"><li>• 食事量の変化、水分摂取がおこなえているか</li></ul>
4) 顔	<ul style="list-style-type: none"><li>• 目（充血、黄染、涙、目やになどの有無）</li><li>• 鼻（鼻水、鼻づまり、くしゃみ）</li><li>• 耳（耳だれ、痛みの有無）</li><li>• 口（口唇の色、乾き、口内炎、歯痛、歯茎の色）</li><li>• 顔色の変化（青、白、赤、黄）</li></ul>
5) 喉	<ul style="list-style-type: none"><li>• 赤くなっていないか</li><li>• 咳、痰がないか</li><li>• 声が枯れていないか</li></ul>
6) 皮膚	<ul style="list-style-type: none"><li>• 赤みや青みはないか</li><li>• 痒みはないか</li><li>• 発疹やむくみ、腫れはないか</li></ul>
7) 尿・便	<ul style="list-style-type: none"><li>• 回数、量、色、固さに変化はないか</li><li>• 血液や粘液が混じっていないか</li><li>• 下痢や便秘はないか</li><li>• 排便、排尿時に痛みはないか</li></ul>
8) 痰	<ul style="list-style-type: none"><li>• 色、量</li><li>• 血液は混じっていないか</li></ul>
9) 痛み	<ul style="list-style-type: none"><li>• 痛みの場所</li><li>• どんな時に、どの程度、どのように痛むか</li></ul>
10) その他	<ul style="list-style-type: none"><li>• 吐き気</li><li>• 体重の増減</li><li>• 本人の困っていること</li><li>• 普段と違うこと</li></ul>



# V 感染症を疑った時の確認事項と

## 拡大防止対策

### \*確認事項

もし、気になる症状がある場合、感染症を疑い、次のことを確認しましょう。そして管理者に報告し、早めに医師の診察を受けるようにしましょう。

①いつから症状が出現していますか？

②最初に出現した症状は何ですか？

③症状は変化していますか？

変化している場合 → どのように変化していますか？

④同じような症状を持つ人が周りにいますか？

(利用者の家族・職員など) いる場合 →

(1)誰ですか？

(2)いつから症状がありますか？

(3) 同じ食事をしていませんか？

(4) トイレの共有はありますか？

## \* 拡大防止対策

感染予防対策の基本は標準予防対策です。感染症を疑う症状がある場合は、医師の診断がつくまでは標準予防策に加えて、次の表のポイントを行いましょう。

- 利用者やご家族にも説明し、協力してもらうことが大切です。
- 感染の可能性のあるものに触れるときは手袋を着用し

ケアの前後は必ず手洗い、うがいも行いましょう。

気になる症状	拡大防止のポイント	
発熱	マスク	咳のある人はマスクを着用、職員も感染予防のため着用
熱	換気	病原体が部屋にこもらないように、5～10分の換気をこまめに行う
痰	その他	直接飛沫を浴びないように、咳のある人の正面ではなく斜め前に立つようにする
発疹	予防衣	長袖で袖口にゴムの入った予防衣を着用
夜間に増強する 痒み	靴下	訪室時に着用し、退室時に履き替える
	衣類、寝具、 リネン	シーツ、寝具、下着、寝巻き等、毎日交換し洗濯を行う
↓	入浴	最後に行ってもらい、浴室や脱衣所とともに洗面台の消毒をする(シャワーで対応)
疥癬(かいせん) の疑い	掃除と換気	周囲の清潔を保つよう、毎日こまめに掃除機をかけ、定期的に換気を行う
下痢	掃除、消毒	便などが付着したところは、掃除し消毒する
腹痛	排泄時	排泄後は、手が触れたところ(便座、手すり、取手など)を消毒液で拭く
嘔吐など	手拭きタオル	ペーパータオル、個人専用タオルを使用する
	衣類、寝具 リネン	便や吐物で汚染した衣類や寝具、リネンなどは消毒液に浸した後、他人の物とは別で洗濯する
	入浴	最後に行い、浴室や脱衣所とともに洗面台の消毒をする(シャワーで対応)

## 【参考資料】

### 次亜塩素酸ナトリウム希釈液の作り方と使用方法

#### \* 感染予防対策（手で触れた物を消毒）

- ・ドアノブ、手すり、蛇口、トイレ、電気のスイッチ、リモコン
- ・調理器具、食器類のつけ置き（30分程度）

0.05% 次亜塩素酸ナトリウム希釈液を使用し、ペーパータオルや古布等で拭き上げる。

作り方 水 500ml + 次亜塩素酸ナトリウム 5ml

（ペットボトルのキャップ 1 杯）

#### \* 嘔吐、便汚染の時（体液で汚れた場所や処理）

0.1% 次亜塩素酸ナトリウム希釈液を使用し、

汚染物の処理・汚染した衣類、リネンのつけ置き（30分程度）を行う

作り方 水 500ml + 次亜塩素酸ナトリウム 10ml

（ペットボトルのキャップ 2 杯）

### !! 使用時の注意 !!

- ・時間とともに効果が減少するため、必要量を作るようにする。
- ・手指の消毒には使用しないで下さい。
- ・使用時は十分に換気を行って下さい。
- ・酸と混ぜて使用しないで下さい。（有毒ガスが発生するため）
- ・使用後に水拭きを行って下さい。
- ・漂白作用があるので、衣類が脱色する可能性があります。
- ・金属製品は腐食の恐れがあります。